

学生大使プログラム 実施報告書

山形大学 人文学部 法経政策学科 1年 武田 知奈美

派遣先：ベトナム国家農業大学

派遣期間：平成28年2月22日～3月7日

「日本語教室での活動内容」

日本語教室は平日に開かれ、9時～10時30分までの午前の部と15時～16時30分までの午後の部があり、一日2コマ授業を行った。文化や歴史について勉強するよりも、「みんなの日本語」という教科書に沿って文法や単語を勉強し、一緒に会話をするが多かった。基本的にはレベル別に分け、同じレベルの人と授業を行った方がスムーズに進むが、時にはレベルが上の人が、英語の通じない人にベトナム語で通訳してくれることもあり、グループで学習するということのすばらしさを感じた。生徒さんの人数が少ない時には、マンツーマンで授業もすることがあった。その時には、その人のレベルに合わせて、会話を楽しむことができた。

グループでの授業では、言葉が通じないということの不自由さとともに、表情や、しぐさや、絵のもつ威力を実感することが多かった。生徒さん全員が英語を話すことができるわけではなかったため、言葉によるコミュニケーションが取れない状況であった。それでも、ボディランゲージを使って一生懸命説明すると、伝わることが多く、嬉しく感じた。

個別の授業では、日本語の難しさを実感することが多かった。日本語は話し言葉や書き言葉や丁寧語があり、同じ意味でも状況に応じて、使う言葉がかわったり、活用がかわったりする。例えば、「あった」を丁寧にすると「ありました」だが、「なかった」を丁寧にすると「ありませんでした」になる。この場合、過去に「ない」という状態を表すのに、反対の意味である「ある」を使わなければならない。日本語は難しい言語であると感じた。また、ひらがなやカタカナを教えることもあった。一緒に表を作りながら、すべての形と発音の確認をした後、指をさして文字を読んでもらい、単語を作って遊んだ。いくつかの単語をやると、生徒さん自身が知りたい単語を言うようになり、楽しんで勉強することができた。

日本語を勉強したいと来てくれる生徒さんが多かったため、とても意欲的で、教えるのが楽しかった。わたしは授業に対して受け身なことが多く、勉強がしたくてしているという意識が低かった。そのため、自分の日頃の行いを振り返り、反省するきっかけとなった。



「本プログラム4つの目的についての成果」

まず、自分自身や日本人としての知覚力について。ベトナムでは自分自身について、考

えさせられる機会がよくあった。ベトナム人はよく、専門について質問する。そして、その専門を勉強して、将来何になりたいのかを質問する人が多い。また、どうして大学に入ったのか聞かれることもあった。日本ではあまりそのような質問をされることはない。日本では、「やりたいことは決まっていなくても、なんとなく大学に入った」が許され、そのような人が多いという現状を抱えているからだろう。しかしベトナムの学生は、将来やりたいことがあり、そのために大学に入り、勉強するという人が多いようだ。そのような違いを感じ、自分自身の将来について、考えさせられた。

次に、相手や異文化の理解力について。生きてきた国が違えば、価値観も違うし、国自体の文化も違う。ベトナムは発展途上国であるため、街にゴミはたくさん落ちているし、上下水道の整備が整っていないため、水道水を飲むことはできない。日本では食べないものを食べるし、有名ブランドの偽物は堂々とたくさん売られている。しかし、そのような違いを知ることはおもしろいものであった。日本で、ヒマワリの種と言えば、ハムスターのえさのように感じるだろう。もし、一生日本にいたならば、私はヒマワリの種を食べることはなかった。しかし、食べてみると美味しかったのだ。ベトナムでは食べることが当たり前だ。このように、自分のなかでのあたり前がくつがえされ、あたり前があたり前でなくなることは、なかなかない体験であり、おもしろさを感じた。

次に、臨機応変に創意工夫できる適応力について。日本語クラスの授業では、生徒さんのレベルがバラバラなため、事前に考えていた授業内容は使えなかった。しかし、その中で、どうやったら楽しく勉強できるのか、考えた。授業の進め方については最後まで悩んだが、臨機応変に対応しようとした。

最後に、英語力を含めたコミュニケーション能力について。ベトナム人はフレンドリーな人が多く、日本に対して興味を持っている人が多いため、積極的に話しかけてくれる人がたくさんいた。そのためか、私も積極的になることができた。様々な話をして交流するのは楽しかった。英語が通じることは少なかったため、英語力の向上はあまり感じられなかったが、コミュニケーション能力はあがったと思う。また、英語力の向上に対する意欲も高まった。

総合的に考えると、4つのスキルを身につけるという目標は達成できたといえる。

「プログラムに参加した感想」

このプログラムは、ただ観光に行くのとは違う。現地の人と交流に行くのだ。しかし、土日はいきたいところに観光に連れて行ってもらえる。とても素晴らしいプログラムであると思う。観光は、もちろん楽しい。現地の人と様々な話をしながら、街を歩き、食べ物を食べ、写真を撮り、とても楽しい時間を過ごすことができた。



そして、その会話の中に、将来のことについて自分を振り返る機会もあり、戦争の話を聞き、日本の平和さを実感することもあり、実りある時間であった。また、日々の授業の中では、日本語の難しさや、文化の違いを感じ、これもまたおもしろい時間であった。日本にいて、ただアルバイトをし、ただ友達と遊び、ただなんとなく日々を過ごしていたら感じるこのできなかったありがたみや、たのしさ、おもしろさをたくさん経験することができた。これは、消えることのない、自分自身の財産であると思う。本当にいい経験であったし、またベトナムを訪れたい、他の国にも、このプログラムで行ってみたいと感じた。



「今後の展望」

チャンアンに観光に行った際に、同行した12歳の少女がいた。彼女は日本語を話すことはできなかったが、英語がよく話せた。12歳と言えば、日本では、アルファベットを習い始める時だ。しかし彼女は、日本では高校で習うような文法もよく理解していた。彼女にどうして英語を勉強しているのか尋ねると、アメリカに留学したいと答えた。アメリカに留学して何を学びたいのかと尋ねると、たくさん勉強してお医者さんになりたいと答えた。私は、驚きと、自分に対する恥ずかしさのようなものを感じた。やりたいことがあり、そのために勉強しているということが、こんなにもかっこいいことなのと思った。

私は、自分は将来何がしたいのか、何のために今勉強しているのか改めて考えさせられた。機械化が進む中、それでも必要とされる、人間にしかできない仕事がしたいとずっと考えていた。人と、コミュニケーションをとることは人間にしかできない。今回ベトナムに行き、国が違っても、交流することはできると感じ、またその楽しさを感じた。もっと海外の人と交流したいと思った。だから私は将来、海外と取引をするような仕事がしたい。そのためにはまず、英語をもっと勉強しようと思う。また、経済学、経営学についてももっと学びたい。やりたいことのために、いま、必要なことを勉強したい、そのように考えるようになった。これからまた、日常生活が始まるだろう。しかし、その生活の中でできること、今やらなければならないことを、きちんとこなし、また海外に行けるよう頑張っていきたいと思う。

